

佳作

「難波津が教えてくれた」

新潟県立佐渡中等教育学校

2年 鎌倉 菖

「難波津に咲くやこの花冬ごもり今を春べと咲くやこの花」

競技かるたは百人一首に含まれないこの歌とともに礼から試合が開始する。競技かるたは礼を重んじる日本の伝統文化だ。日本人は古来より礼を重んじる文化を持っている。しかし、近年の日本では、それがおろそかになっていると思う。

迷惑動画や議員の態度などについての報道が多く取り上げられている。日本は礼儀正しい国として知られていたはずなのに、みんなが礼儀正しいとはいえなくなってしまったのではないか。だから私は自分から礼儀をよくして、本来の日本の良さを取り戻したいと思うようになった。

私がこのように考えるようになったきっかけは競技かるただ。私は小学5年生のときに競技かるたを始めてから、平安時代の文化に興味を持った。それから、古典やほかの歌集にも興味を持ち、日本の文化の素晴らしさに気づいたし、昔の人によって繋がれてきたことはすごいことだなと思った。また、競技かるたはゲームや遊び感覚で日本独自の文化と触れ合うことができるから、昔の人の気持ちが私にもわかるような気がした。歌から感じられる気持ちや当時の状況は私と重なるところや共感できる部分があり、身近に感じたのだ。

そして競技かるたを始めてから数年たった頃、県の中高生大会に出ることになった。そこで最後に講評として言ってくれた言葉を今でもはっきりと覚えている。それは

「試合中の動作の美しさや礼儀は結果に直結します。」という言葉だ。

この言葉で私は礼儀正しくしているつもりだったけれど、それは本当の礼儀正しさではなかったのだなと思った。考えてみると強い人は相手に迷惑をかけるだけでなく、相手を思い合って試合をしていたことに気がついた。私は迷惑にならないことが礼儀をよくすることだと思っていたけれどそうではなく、相手を思いやることこそが真の礼儀なのだと気づいた。このことがあってから、家族が送ったり、迎えに来てくれるときは「お願いします。」や「ありがとう。」とお礼の言葉を言うようにしたり、地域の人や先生、自分を支えてくれている人たちに積極的に挨拶をするようにしたりした。そうすると、前よりも自分のことを気にかけてくれたり、丁寧に指導してくださることが多くなった。また、初めて会った人にも好印象を持ってもらうことができ、その後会

ったときや何かに取り組む機会があるときに声をかけてもらえたり、アドバイスをくれたりした。自分で礼儀をよくしたら相手も礼儀よく接してくれるようになったのだ。競技かるたで学んだ礼儀は私に礼儀よくすることの良さや人と関わることの楽しさ、そして他人を思いやる心を教えてくれた。

だからこのことを忘れることなくこれからもっと礼儀のいい人になれるように生きていきたい。だから私は今日も「難波津に」で誰よりも心をこめて礼をする。